



題字 大西 一史 市長

第65回 日本PTA九州ブロック研究大会 くまもと大会

今年度、予定しておりました九州ブロック研究大会くまもと大会は、新型コロナウイルスの影響により開催が中止となりました。



しかし、64回も引き継がれてきたこの研究大会の長い歴史を今後へつなぎ、熊本からのメッセージを発信するために大会誌を発行するとともに、熊本が担当する特別分科会1と2を県P・市Pがそれぞれ小規模で開催することとしました。ここでは熊本市PTA協議会が担当・提案の特別分科会2を紹介いたします。

◆特別分科会2 『子どもの居場所づくりにつながる、 おやじの会ミーティング』 ～地域で守る子どもたちの未来～

本来であれば、九Pくまもと大会分科会当日である令和2年10月10日(土)、県民交流館パレア9階会議室にて、特別分科会2「おやじの会ミーティング」が開催されました。

この分科会の議題は「大人が支える子どもの居場所」。いじめや不登校、子どもの貧困やSNS

に関連した事件など、近年の子どもに関わる課題の背景には核家族化や他者とのつながりの希薄化もあるのではないかと考え、地域での子どもの居場所づくり「おやじの会」を役立てたいとの思いから、この分科会が設けられました。



まず事前に実施された各小学校へのアンケート結果報告がありました。市内の小中学校計135校のうち、回答があった119校の中で「おやじの会」がある学校は71校。創立5年以内の学校から21年以上の学校までさまざまです。活動内容も学校やPTA行事の手伝い、地域イベントへの協力、清掃活動、防犯パトロールなど多岐にわたっていました。

記述欄には、ボランティア精神が高い人が集まっている。卒業後も地域の組織に移行して地域の活性化に取り組んでいる。父親がPTA活動に参加しやすいようその窓口になると同時に父親同士、顔見知りになろうという会です。という意見



父親の協力がある方がスムーズかつ円満にいくことも多いと思う。子ども会の保護者に声をかけて少数でも「おやじの会」を発足させたいと思っている。という意見もありました。

次のグループトークングでは、5つの区ごとに「おやじの会」がある学校とない学校を混ぜ、①「子どもの居場所づくりとおやじの会の役割」とは、②「おやじの会とPTAとの関係性」の2つのテーマで話し合いました。その後の発表では、父親同士のつながりやコミュニケーションを大切にしているという意見が多く、地域の交流やイベントをたくさん実施することで居場所が生まれるという意見もありました。事前アンケートでは、「おやじの会」とPTAは独立した関係だとの回答が半数以上でしたが、できないことを補てんしあう関係という意見もあり、「おやじの会」の存在がPTAの活性化にもつながっているのではないかと考えます。その後の質疑応答では、他の学校の取り組みについて教



もありました。「おやじの会」がない学校からは、発足させたい思いはあるが、どう動いていいかわからない。必要性を感じない。といった意見がある一方、学校や地域での活動で

えてもらったアドバイスを受けたりして、有意義な時間になりました。最後のまとめをしていただいた慈愛園里親支援専門相談員の田中一幸さんのお話では、「子どもの居場所だけでなく大人の居場所、そして家庭の居場所づくりが必要。PTAは学校と家庭をつなぎ、おやじの会は地域と家庭をつなぎ」という言葉が印象的でした。



このミーティングを通して、特定の人だけでなく多くの人が参加できるようなきっかけづくりには課題もありますが、父親たちが楽しみながら活動する様子が子どもたちにも伝わり、結果的に子どもたちの居場所づくりにもなっているのではと感じました。また、学校や地域と連携しながら家庭の孤立を生まないよう活動していくことが大事だと思います。(古町小学校 副会長 内村 由起)

それぞれのHPから、
特別分科会1・2の様子が
ご覧いただけます。



分科会1
(県P:防災・復興)



分科会2
(市P:子どもの居場所)

日本PTA九州ブロック 研究大会とは…

熊本市PTA協議会(市P)は熊本地震の年、平成28年6月の日本PTA全国協議会(日P)定期総会において、日Pを構成する60番目の会員となり間もなく丸5年になります。つまり、熊本からは市Pと熊本県PTA連合会(県P)との2団体が日Pに加入していることになります。



九Pのロゴマーク

ところで、全国は北海道・東北・東京・関東・東海北陸・近畿・中国・四国・九州の6ブロックに分けられ、熊本は沖縄を含む8県・3政令市(計11団体)からなる九州ブロックに属しています。この11団体が毎年交代で開催するのが九州ブロック研究大会(九P大会ともいう)なのですが、市Pは加入間もないということもあり、5年前に今回までは県Pと合同で開催すると決められており、この2～3年間共に準備を進めてきたのです。

次からはいよいよ独り立ちです。ちなみに、令和9年度に市Pに順番が回ってきます。しかも6年に一度九州に回ってくるのと重なり、いきなり日P大会なのです。あと6年後です。

日頃は主として自校内で活動をするPTAですが、たまに学校外の大会に参加すると様々な刺激を受けられることでしょう。コロナが収まったら出かけてみられませんか。

近年、全国的に水難事故が発生しているのを受けて、二度と同じような事故が発生しないよう、子どもたちの命を守る取り組みを熊本市PTA協議会と南区PTA連絡会が連携して行っています。



命を守る
ために
今できる事を

また、白川を管理する国土交通省、2級河川の管理をする熊本県土木事務所の方々はじめ、さまざまな機関とともに水難事故防止に向けて現在進行中です。

1月には、ライフジャケット着用を呼びかける「水難事故防止ポスター」を作成し、熊本市内の小中学校に配付する啓発活動を実施しました。さらに、南区PTA連絡会では、各校のPTA役員向けに、アクアドームで着衣水泳・ライフジャケット着用体験の研修会も計画中です。

熊本市は、自然豊かなところですが、安全な中に、山・海・川と触れ合いながら子どもたちが成長できる環境づくりを皆さまとともにやっていければと考えています。コロナ禍で子どもたちは外で遊ぶ機会が減り、特に昨年は学校でのプール授業もななく水に触れる機会がありませんでしたが、次年度はコロナ対策を行いプールも再開し、着衣水泳などができるようになればと願っています。

さまざまな状況の中でも、子どもたちのために学校・家庭・地域・PTA・行政がしっかりと連携を図りながら、安全・安心な環境づくりをしていきたいと思います。

(南区PTA連絡会代表 橋口 健二)



「当たり前」で教える命
海や川で遊ぶときは
ライフジャケット

熊本市PTA協議会

各区PTA連絡会研修会開かれる

北 区

『子どもたちの未来への学び
～一人一台情報端末時代に求められる教育のあり方～』

熊本大学教職大学院 前田 康裕 准教授

令和3年1月24日(日) 北区PTA連絡会主催の研修会が、Zoomを併用した形で熊本城ホールで開催されました。

iPadなどタブレットによる参加者145名を含む158名の参加がありました。



講師の前田康裕先生は、「まんがで知る未来への学び」の著者であり、子どもたちの未来への学びを軸に次の3つの内容に分けて講演いただきました。

- ・これからの社会と必要な能力
- ・新しい学習指導要領とICT
- ・家庭学習と家庭の在り方

社会が変わる中、そこを生き抜く子どもたちには、テストでいい点をとる認知的スキルだけでなく、目標達成や、他者との協働、感情のコントロールなどの非認知的スキルもとても重要になります。また、時代によって必要な力は変化するのであります。

ついつい、タブレットに目を向けがちですが学習指導要領が変わり、学校での子どもたちの学びが大きな変化を迎えています。その中で、ICTを自転車に例え、「自転車に乗ることが目的ではなく、目的地にたどり着くための道具」にタブレットを使い社会的な課題を解決するために自律的に学ぶ、そんなことができる力を身につけさせる必要があります。最後に、家庭学習についてお話がありました。テクノロジーの変化は子どもだけの課題ではありません。親も子どもと一緒に学ぶ姿勢が必要です。学習に問題意識をもち、創造的・探究的な学びを学校と

『北区PTA連絡会
スキルアップ研修会』

令和2年10月29日(木) 北部公民館にて、北区PTA連絡会運営委員会に引き続きZoom研修を行いました。

簡単にオンラインでのミーティングが可能になることから、コロナ禍の中でZoomはビジネスシーンで多く活用されています。

Zoomのメリットとして、40分間無料ホストが有料プラン契約すれば参加者は無料、Webブラウザでも参加できるなどの利点があります。

PTAでZoomを導入したらどうなるか考えてみると、まず会議室が取れなくても会議ができる。小さい子どもがいなくても、家で会議に参加できる。背景を変更することで自宅を見せなくても大丈夫。感染症の心配なく会議ができる。有料プランであれば、研修など時間制限なく多くの保護者に配信でき、時間・場所にとらわれない活用が可能になります。



東 区

『会員の学び かたち新たに
遠藤教育長をお招きし、Zoom配信』

東区PTA連絡会主催のスキルアップ研修会が、令和3年2月6日(土)に、Zoomを使ったオンライン形式で開催され、画面越しに多くの学びを得た研修会となりました。

研修会は、会員の意識向上を目的に毎年開かれており、当初は来場参加によるものを企画。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大による熊本県独自の緊急事態宣言を受け、同区初のオンライン形式に変更されました。

「これからの熊本市の教育が目指すもの」と題した講演では、遠藤洋路教育長が市の教育方針を軸に今後の展望を解説。昨年4月の臨時休校期間に行われたオンライン授業の成果と課題や、子どもたちに一人一台配付されているタブレット端末を使った学習法、家庭での活用方法などを、スライドを使って示されました。

また、最近話題になっている校則については、市教委が今年度実施したアンケート結果を元に、児童・生徒、教職員、保護者での意識の違いなどを踏ま



最後に研修会参加者が、実際にZoomを体験しました。

コロナ禍の中、学校、PTAにおいてもZoomを活用していく場面が増えてくると思っています。このような学習の場を

少しでも多く体験することにより、新しい形の会議の開催に向けて色々な取り組みができ、今後のPTA活動に活かしていけると感じた研修会でした。

(山東小学校 副会長 酒井 伸詞)

(東区PTA連絡会スキルアップ研修会)



え、「各学校で関係者が議論して見直しを進めることが大切」と語られました。

続く座談会では、遠藤教育長と市PTA協議会の松島雄一郎会長、東区の吉田英太郎代表幹事が、ICT教育の可能性や校則見直しの意味などについて意見を交換。また、PTA組織に関しては、「ズバリ、今後PTAは必要ですか?」といった本音に迫る質問に、「みんな子どもたちを育てていく中で、PTAが占める役割は大きい」との考えを述べられました。

講演、座談会ともに、時間を感じることもなく、モチベーションが上がる内容でした。また、コロナ禍のために満足なPTA活動ができなかった単Pも多かったと思いますが、オンライン形式にもかかわらず多くの会員が参加されたことは、今後の活動のヒントになるのではないかと感じた研修会でした。

なお、この研修会の動画は、いずれ熊本市PTA協議会のホームページにもアップされる予定です。

(若葉小学校 副会長 高木 裕治)

(財) 熊本市PTA教育振興財団からのお知らせ

共済期間は：学校などの年度に対応する1年間(4月1日から翌年3月31日まで)になります。本年度ご加入の方々のPTA活動や部活動関係の活動で共済給付の対象となるのは、令和3年3月31日までに実施されたものとなります。

春休み期間のご注意：春休み中でも4月1日以降に、本年度の学級や学年での活動が実施された場合、共済の対象とはなりません。また3月31日までは、**小学校6年生や中学校3年生が、進学予定の中学校や高校の部活動**などに参加する場合、本年度の共済の対象とはなりませんので、事故発生時の補償についてはご注意ください。

学校管理下の事故にも対応しています。

児童生徒の皆さんが学校管理下(登下校中を含む)で被災した場合にも、死亡あるいは後遺障害、歯科保険外治療、交通事故等について、本共済からの共済金給付が受けられます。また、ご加入の保護者(PTA会員)の方々はPTA活動に加えて、学校行事や部活動支援活動(PTA会長の承認がある場合)に参加中の事故(往復中を含む)にも対応しています。このような場合の事故発生時には、事故発生から1か月以内にご報告をお願いします。

熊本市PTA共済に関するご質問やご連絡は・・・

共済の対象となる活動の範囲、事故発生時の手続き、様々な手続きに必要な書類などお気軽にお問い合わせください。 **事務局 TEL：096-278-8811 7ヵーダイヤル：0800-200-5553**

交通事故が減りません！ 命を守る努力を・・・

本共済Pコースでは、児童生徒の皆さんの登下校中の交通事故にも共済金を給付しています。令和1年度中の交通事故に対する給付は、前年度までに報告された事故を含め計154件(うち後遺障害1件)で、そのうち小学生・中学生の事故は45件(中学生29件、小学生16件)でした。中学生の自転車通学中の事故や、横断歩道のない場所で渋滞中の車の間を横断した際の事故が目立ちます。道路交通法、自転車安全利用ルールを守り、自転車乗車時はヘルメットを着用し、自分も周りの方々の命を守る努力をしましょう。

COVID-19 活動中の感染予防対策を、常に基本として継続しましょう

感染の拡大が止まらない新型コロナウイルス感染症です。無症状の感染者からの感染リスクが高いことや家庭内感染が問題になっています。さまざまな活動の中でも、多くの人が密になって飲食をする、マスクの使用なしに近距離で会話する、などの行為を避け、濃厚接触者をださない対策を心がけましょう。自分は大丈夫、これくらいは大丈夫、と思うのは危険です。

熊本市PTA協議会

小・中学生総合保障制度(こども総合保険)のご案内
学校内外でケガをしてしまったら・・・

自転車を運転していてケガをさせてしまったら・・・

2021年1月現在の内容です。

任意加入保険

小・中学生総合保障制度(こども総合保険)

お子さまを取り巻く様々な事故のリスクに対応します。
学校内外でのケガを補償します。

学校内外でのケガを補償します。



他人にケガを負わせたり、他人のものを壊したりした場合に補償します。



上記の他にも、病気補償・学校管理下産産補償・育児費用補償・被害事故補償など様々な補償でお子さまをお守りします。 ※補償内容、保険金額はプランにより異なります。

●団体割引制度により保険料は約29%割引

当制度は、PTA団体加入制度のため、約29%保険料が割引されています。

4種類のプランの中から選びいただけます。

1年間の掛金3,860円～(プラン・補償開始日により掛金は異なります。)

加入件数/4,056件(2020年度)

※割引率については、このパンフレットで案内している保険商品の算出基準である保険料(加入者数20名未満の団体における保険料)に対しての割合を示します。適用される割引率は前年度の加入者数・過去の損害率等に応じて決定します。

次年度以降、割引率が変わる場合がありますので予めご了承ください。

この制度の詳細な内容は、こちらからも確認頂けます。

『お子さまのための総合保障制度』<https://riskfinder.jp/school/>

お申込み・お問合わせ

熊本市PTA協議会 小・中学生総合保障制度事務局

TEL:0120-228-553

受付時間：平日/午後9時～午後5時 千810-0022 福岡市中央区薬院4-3-5 セレス薬院5F 株式会社コーリン内

制度引受保険会社：AIG損害保険(株)、東京海上日動火災保険(株)、損害保険ジャパン(株)、Chubb損害保険(株)、三井住友海上火災保険(株)

ご加入の際には、パンフレットおよび重要事項説明書を必ずお読み頂いた上でお申し込みください。 S-210389(2022-2)



本校は明治9年護藤小学校として創立し、平成3年に熊本市立飽田南小学校へ名前が改められました。今年で144年目を迎える歴史と伝統ある自然に恵まれた小学校です。

また本校区は、熊本県の特産品である「あきたなす」でも有名な地域です。

それから、本校は他の学校にはない平屋建ての珍しい造りの校舎です。阿蘇のペンションをイメージして造られたそうです。以前は1学年1クラスの児童数



ホンモノに触れ育むこころ

南区「飽田南小学校」



私たち泉ヶ丘小学校は動植物園通り沿いにある昭和31年創立、今年で64年目を迎える小学校で、校訓は「かしこく、なかよく、たくましく」です。校訓のとおり、子どもたちは真冬でも制服姿でグラウンドを走り回っています。

COVID19の影響により遠隔学習の時期があり、人と人との接触も難しく、運動会はどうなることだろうと心配される中、令和2年11月14日(日)に『体育発表会』という形で開催されました。

感染拡大防止のため、☆入場時の手指の消毒☆マスクの着用☆保護者スペースからのみの参観☆交代制による競技発表などが参観時のルールとして設けられました。最初は3・4年生の発表からはじま

楽しもう 最後は笑顔で泉っ子

東区「泉ヶ丘小学校」

100人にも満たない小規模の小学校でしたが、近年は、近郊の宅地化も進んできて、それに伴い児童数が増えています。本年度は児童数206人となっています。

昨年、子どもたちへ豊かな心を育成しようとしてホンモノに触れ感性を育む授業に取り組みました。おぼけの金太製作者厚賀新八郎先生に本校にいらしていただき獅子舞のお面やおぼけの金太に直接触れる機会を設けました。なかなか見ることが触れることのできないホンモノを身近に感じ、子どもたちも貴重な体験をしました。

その後、厚賀先生からは6年生にジュースのパックを利用した夢獅子作り



り、2・5年生、1・6年生の組み合わせで発表が続きます。発表時間はどの組み合わせも1時間というタイトなスケジュールです。

いつもの運動会であれば、あの緊張する宣誓の言葉は一人で行いますが、学年交代のたびにその中の代表者が務めています。こういった機会が増えたことは良いことだなと感じました。

発表時間が1時間ずつと短いため、競技にも工夫がされていました。ダンスの表現競技と玉入れの団体競技をミックスしたり、普段では見ることのないおもしろい競技へと進化して見て、ごたえもある内容のものばかりでした。

本来であれば中止でも仕方のない状況の中、簡単に中止するのではなく、いかにこの困難な状況下でも質を保ちつつ安全に行事を実施するかという挑戦する気概を感じさせてくださった先生方。そしてそれに応えてくれた子どもたち。私たち保護者も負けないようPTA活動に取り組んでいきたいと思います。



龍田小学校は白川を臨み、立田山をひかえ、水と緑の自然の恵み豊かな立地であり、今年で135周年を迎え、「どんどこ」や「身近な森の音楽会」などの行事をとおり、地域とのつながりが強い、伝統ある学校です。

一方で、経済情勢などの社会環境の変化に伴って、家庭では共働き世帯が増加し、核家族化の進行により、子育て環境は祖父母の支援が受けられにくい状況となつてきています。それにより、PTA活動への参加が難しい状況が生まれてきています。

そこで龍田小PTAは、今後も持続可能で、より参加しやすいPTA活動を推進していくために、新たな取り組みを開始いたしました。

まずは、運動会において、委員会とは別に、ボランティアとして、運動会の準備や運動会開催中の見回りなどの役員を募集いたしました。その結果、役員の募集には、予想した以上の人数の応募があり、行事などの役員募集は今後のPTA活動にとっても有効な方法であり、これからの可能性を大いに感じました。

また、PTAの「ひと家庭ひと役」の範囲を、読み聞かせなどの地域ボランティアで活動されている方もその対象としました。学校行事やPTA行事の枠を超えて、子どもたちのために地域で活動されている方を応援できる仕組みを拡充していきたいと考えております。

さらに、このたびの新型コロナウイルス感染症拡大の中で、どのような状況でも会議を開催できるよう、Zoom会議システムを用いて、オンライン会議システムの構築を行いました。

今年度は、ほとんどの行事が中止となり、緊急のオンライン会議の必要性が低かったため、試験的運用に止まりました。

持続可能な PTA活動を目指して

北区「龍田小学校」

も指導していただきました。

また「飽田南造形フェスタ」を昨年度から開催しました。児童の作品を体育館に展示し、期間中は児童はもちろん保護者や地域の方々もたくさん見学に來られました。

ホンモノの作品や友達の作品に触れることによって心の中に豊かな感性が育っていくのではないかと考えています。

今後ぜひ続けたいと思っています。

（飽田南小学校 副会長 岡崎 愛）

が、今後の感染症の状況や保護者がPTA活動へ参加しやすい環境を整えていくためにも、オンライン化をさらに進めて参ります。

最後に、今後の目標として、PTA活動への更なる周知・理解促進のため、Web上によるアンケートや学校との懇談会などでご意見・要望等を聞いていくような機会も創出していきたいと思っています。

龍田小PTAは児童・先生・地域を結び付けていく社会教育団体として、その役割を果たします。

（龍田小学校 副会長 伊藤 和仁）



井芹中学校は熊本市北西部に位置し、上熊本駅再開発で近代化が進む一方、学校横には井芹川と西に金峰山を見上げ、まだまだ緑豊かな環境も多い地域です。

本校は昭和63年に開校し、校舎はコンクリート造の斬新なデザインです。新幹線の車窓から見える校舎のたたずまいは、とても印象的に映ります。校舎周りには緑化委員や先生方、地域の方々の協力もあり季節の花が満開で、中庭のシンボルツリー「アメリカフウ」は、秋には彩やかに紅葉しています。

今年度は創立33年目を迎えますが、創立30周年記念式典の際には、卒業生のボクシング世界チャンピオン、福原辰弥氏を迎え講演を行っていただきました。福原選手の座右の銘は「努力は裏切らない」。講演での福原氏の言葉の数々は、生徒たちの心に深く響いたことだったと思います。

伝統の「井芹しぐさ」

西区「井芹中学校」



（熊本大学教育学部附属小学校 副会長 福田 勇）



PTA活動の精選や変更などを検討する機会にもなりました。「どの行事にどんなねらいがあるのか」「子どもたちにとって本当に必要なことは何か」といったPTA活動の本質やあり方を改めて考えることができたのではないかと思います。密を避け保護者などの参加制限を設けた学校行事、登下校指導や奉仕作業、花の苗植え、広報紙作成、豪雨災害を受けた人吉地方へのタオルの寄贈など、学校とPTAが連携・協力し、お互いに理解を示しながら、例年と変わらぬ協力をすべく最大限の工夫を凝らしてまいりました。

コロナ禍のこの状況はいつか必ず終わりを迎えます。今年度改めて考えさせられた「子どもにとって本当に有益なPTA活動とは何か」という視点や考え方を、コロナ収束後のPTA活動にも生かしていきたいと思っています。

（熊本大学教育学部附属小学校 副会長 福田 勇）

「子どもにとって本当に必要なものは？」PTA活動の本質やあり方を模索

中央区「熊本大学教育学部附属小学校」

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、思うように活動ができなかった単位PTAさんがほとんどではないでしょうか。本誌では、単位PTAさんの創意工夫あふれる活動を紹介しておりますので、参考になさってください。

134号編集にご協力いただきました皆さま、ありがとうございます。

広報委員長 山本健次（城西小）

伊藤 和仁（龍田小）

塩森 大典（高平台小）

酒井 伸詞（山東小）

東 絵美（秋津小）

岡本 明（泉ヶ丘小）

高木 裕治（若葉小）

白尾健太郎（向山小）

小園 和剛（常山西小）

福田 勇（附属小）

岡崎 愛（飽田南小）

佐々木由起子（中緑小）

川口 理恵（飽田中）

内村 栄一（古町小）

田中 雄二（城西小）

田尻 貴之（井芹中）

高崎 貴之（河内中）

林田 将希（城山小）

吉山 智之（井芹中）

今村 吉宏（花陵中）

編集後記



また、井芹中には「井芹しぐさ」という伝統的な行動があります。その中の一つに、立ち止まって挨拶をするしぐさです。これは、本校に赴任された先生方や当校へ来校された方々からお褒めをいただくことも多いです。普段より毎朝早くからの挨拶運動や、本校周辺のボランティア清掃などの活動をとおして、生徒たちは豊かな心を培っております。本校PTAもこれらの活動とともに、学校や生徒、保護者間のコミュニケーションを図るとともに学校活動に協力したいと思います。

井芹中学校 副会長 高野 さやか